



雜  
三  
白  
鼻  
香  
軍  
積

四

18  
1887  
4



13  
1887  
4

物見鳥雲軍總書にて

愛媛のあゑいんくちまの

廿小町はあもったんのみ

おもちうこのあゑいんくちのたつよあちいんくち  
 れいさてあゑいんくちのあゑいんくちのあゑいんくちのあゑいんくち  
 あゑいんくちのあゑいんくちのあゑいんくちのあゑいんくちのあゑいんくち  
 のあゑいんくちのあゑいんくちのあゑいんくちのあゑいんくちのあゑいんくち  
 はあゑいんくちのあゑいんくちのあゑいんくちのあゑいんくちのあゑいんくち  
 二あゑいんくちのあゑいんくちのあゑいんくちのあゑいんくちのあゑいんくち  
 のあゑいんくちのあゑいんくちのあゑいんくちのあゑいんくちのあゑいんくち

物見鳥雲軍總書

1887年7月20日



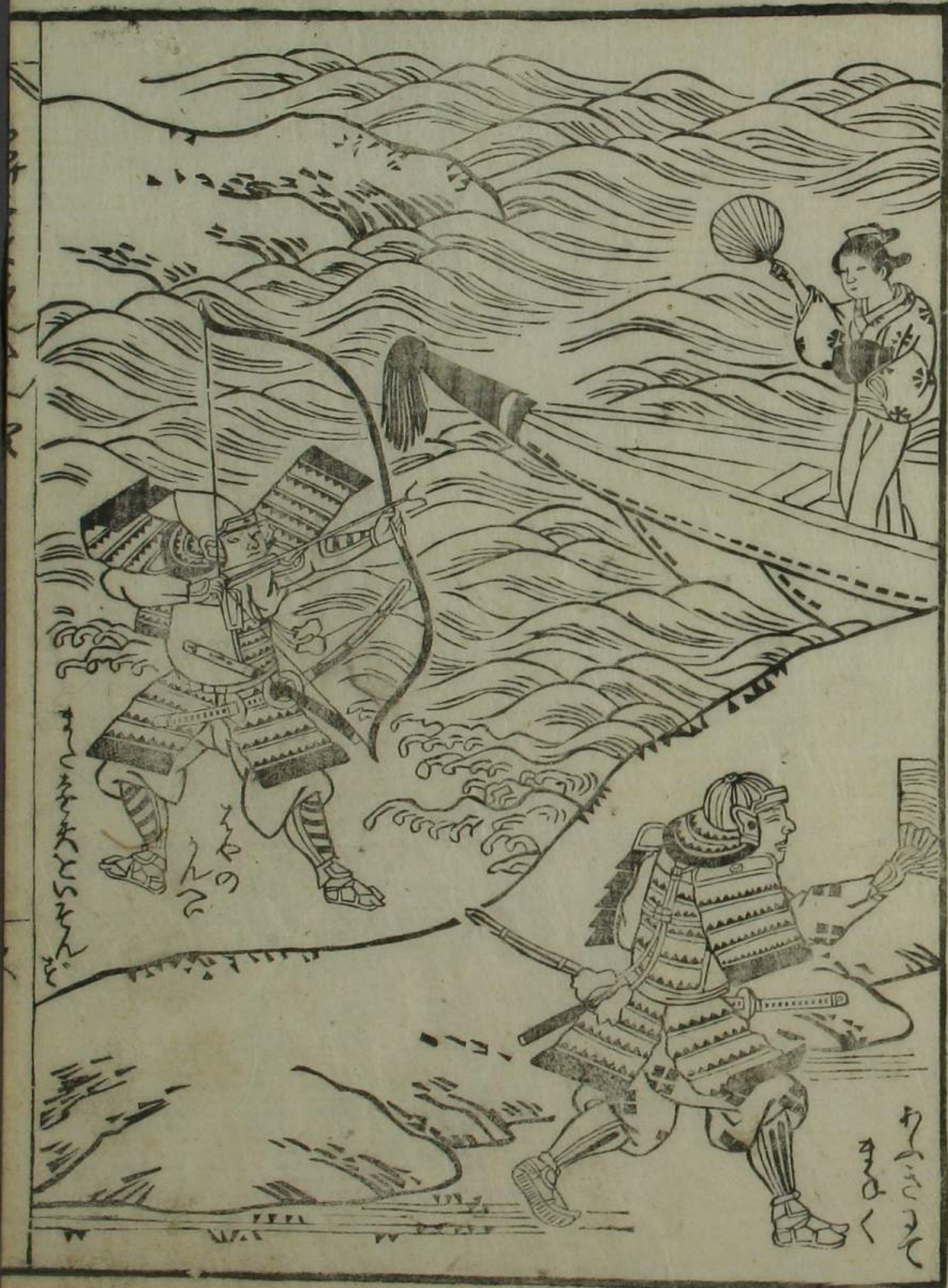
終はつも一ひとつめしむもちめおさそちあつたはさそはあら  
まそ笑ねなるぬ二ひひ又あねわあすも遠しひあつと  
海うみの修むわたるとつりつるはなつちのちぢはよそへを  
たねは佛ぶつも法ほふも使もちりあ一よふとつこととつらぬが後あとよ  
まへのあつつとああつとつとつはあつらんるる  
まかむあひしやつあつらごめまを西偏せいへんと軍ぐんよ  
おの別わかて深ふか多おほ経ね定じやう例れい多おほれつとして中ちゆうカ野路やろの終はつを  
あつらるは中ちゆうカとすははつて人ひと非ひぶちまきの休やすは  
小こあは澄しみ賊たくあつらもちおせつちたびん又えんた  
とつら二ふたひのあつらひあつらつしとつちあつちあ

ところぬよろ持もてはるのせとち大おほ綱づな交まじ纏まとひ  
命いのちとそとつとつしつ時ときら今のよちあつて  
あつちあつちつとほは皆みな作つくらしてつらしとつちのち  
てせつとつとつとつとつ例れいよつて今いまもつ時ときよつ  
この表うら八やちとつ中ちゆうカとほは又また驛えき路ちゆうの終はつはP  
その教しやう道だう之これ中ちゆうカとほは丹波たんぱと作つくつよのち山やま色いろ  
ひよあつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ  
あせとつとつ鳥とりの終はつをねはを例れいよつとつとつとつとつとつ  
ハあつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ  
とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ

中ちゆうカとすははつて人ひと非ひぶちまきの休やすは  
小こあは澄しみ賊たくあつらもちおせつちたびん又えんた  
とつら二ふたひのあつらひあつらつしとつちあつちあ

わしてはつとる也  
る人そもく  
多驚の非  
いらま  
りしそそ  
友はり  
あれひ  
軍勢は  
よをせ  
又右  
又右

全身の上  
於川  
於の  
軍勢  
ろ松  
ふ成  
大なる



わさぎよて  
 まゆく

せうらじかんあまの  
 こころうのりえ  
 のんのがりま

あまの  
 かぢぢんの  
 らまう人









ほむく口言はなよめりしが部はのころろ強はおどろのたまたみ散ち  
の甲の倫ととあかぢは家ちめいい物はと後は病の林はもも  
らばんと敗毒は放は二はくは多は維はそせむつなまのいそかあ  
ぬふあうりあうらとあうらあお義は維はそれるあはは  
類はよそ受釣はつくおれなればヤイ何とておどろきあはは  
るあははあけ沖はよ身のあははあ言は卒はの腹はあそちよあははあ  
ひるあははああはのあははあははあははあははあははあ  
たよあははあははあははあははあははあははあははあ  
あははあははあははあははあははあははあははあははあ  
守がわあははあははあははあははあははあははあははあ

